キャンパス点描

学部オープンキャンパス 2016 を開催しました

2016 年 7 月 16 日（土）～ 18 日（月）の 3 日間、学部オープンキャンパスを開催しました。

学長挨拶

連日の猛暑の中、6,300 名を超える受験生や保護者の方々にご参加いただきました。

全体説明会では、室伏きみ子学長からお茶大の紹介と受験生へのメッセージ、続いて髙﨑みどり副学長から多様な入試制度、お茶の水女子大学の特徴的な教育プログラムである「複数プログラム選択履修制度」や「文理融合リベラルアーツ教育」、多岐にわたるグローバル教育、本学独自の奨学金、学生寮などについての説明がありました。その後、学部長による学部・学科の説明があり、皆さん熱心に耳を傾けていました。

徽音祭実行委員企画

全体説明会会場の様子

全体説明会後には、各学科・講座・コース別に、模擬授業や在学生による相談、研究室ツアーなど工夫を凝らしたプログラムが用意され、紺色の T シャツを着たアシスタント学生が大活躍。どのプログラムも大盛況で、参加者から活発な質問が飛び交っていました。

来年度も引き続きオープンキャンパスを実施いたします。開催時期が決まりましたら、大学ホームページでお知らせいたします。皆様のお越しをお待ちいたしております。

新型 AO 入試「新フンボルト入試」プレゼミナールを開催しました

お茶大では 2016 年度から「新フンボルト入試」という新しいタイプの AO 入試を導入します。この新フンボルト入試の第一次選考にあたるプレゼミナールを 2016 年 9 月 24 日（土）・25 日（日）の 2 日間にわたって開催し、受験生約 200 名を含む 500 名近い方々に参加していただきました。

このプレゼミナールは、受講者を AO 入試の受験生だけに限定するのではなく、広く高校 2・3 年生にも開放して行う点に大きな特徴のひとつがあり、受講生にお茶大の校風や大学という知的世界を実地に体感してもらえる機会を提供するものとなっています。

天候には恵まれませんでしたが、プレゼミナール 1 日目には文系諸分野から 5 つのセミナー、理系からは 9 つのセミナーを開講し、ご担当の先生方がそれぞれ入念な準備をして熱の入った授業を高校生に対して行ってくださいました。1 日目の受講者は約 360 名にのぼります。

2 日目は、受験生以外の高校 2・3 年生を対象とした図書館情報検索演習を午前と午後それぞれ開講し、また、理学部生物学科では大学院生による研究ポス

お茶の水女子大学と筑波大学が大学間連携協定を締結しました

2016年9月1日(木)、お茶の水女子大学と筑波大学は、大学間連携協定締結に伴う調印式を執り行いました。

調印式には、本学から室伏きみ子学長、髙﨑みどり理事・副学長(教育担当)、真島秀行副学長(学校教育支援・社会連携担当)、筑波大学から永田恭介学長、伊藤眞副学長(教育担当)、宮本信也理事・副学長(附属学校教育局教育長)が出席し、協定書調印の後、両学長から挨拶がありました。

調印式では、筑波大学の伊藤副学長から両大学の連携に関する概要説明があり、引き続いて、筑波大学の宮本理事・副学長から附属学校間連携の概要説明がありました。続いて、筑波大学の永田学長から「ジェンダー研究・教育や女性リーダーの育成について長い経験と高い実績があるお茶の水女子大学と協定を結ぶことは各方面で活躍する女性人材の輩出に繋がる。また、附属学校を含めた大学間の連携で将来を見据えたキャリア形成の充実が図られることを期待する」旨の挨拶がありました。続いて、本学の室伏学長から「大学改革を含む様々な教育課題の一つに、国立大学の附属学校の存在意義があるが、両大学の持つリソースの一層の活用を含めた先導的な取組を広く発信することで、新たな附属学校教育の開発・構築とわが国の初等・中等教育の向上・発展に繋げていきたい」旨の挨拶がありました。

左側が永田筑波大学長、右側が室伏学長

今回の連携協定は、ともに師範学校を創基とする大学であり、歴史的背景を有することから、幼児教育から大学院教育まで全ての世代の教育をシームレスにつなぎ、両大学のそれぞれの資源・強みを活かし、協働して人材育成を図ること、さらに、附属学校教育を含めた特色ある新たな教育連携への発展を目指したものです。

本調印式には、多数のメディア関係者が出席し、連携のメリット、今後の具体的な連携方策等についての質疑応答がありました。

ター発表・自主研究課題相談会を開催し、高校教員約20名を含む合計130名が参加しました。

従来の入試では、大学が受験生を一方的に選ぶだけのもの、受験生にとっては合否がすべて、という性格が強かったと思います。それに対して、この新型AO入試は、(誤解を怖れずに言えば)「合否にかかわらず」何かを得られる入試、参加した高校生に大学での学びとはどういうものであるかを垣間見てもらい、その上でぜひお茶大で学びたいと強く思ってもらえる入試にしたいと考えています。来年以降も、この一風変わった入試に意欲的な高校生がチャレンジしてくれることを願っています。